

## 低学年の授業形態

国語と算数が中心になる。他の教科は、直接、情操教育につながる部分が多いので、知識理解というより「子どもの感性を磨き育てる。」とか「子どもの心を育てる」ことが中心になるからである。しかし、国語や算数も情操教育につながらなくてはならないし、つながるような授業を構築しなければならない。

特に大切なことは、指導者が頭に描いた映像的イメージをいかに正確に子どもに伝えることができるかである。視覚的に捉えさせることではない。

○低学年での指導のポイント

- ① **イメージ化**      ・どんな事柄でも映像的にイメージさせ、それを膨らませていくような指導が必要である。
- ② **表現力**        ・動作、文章、絵、図などいろいろな手段を使って、自分の想いや願いを表現する力を育てる。  
・目に見えないものをいかに表現していくかを考えさせることが大切である。

### 国語

○問題解決学習展開で、仮説検証型が多いと考えられる。

○「仮説」は、子どもにとっては「結論」である。

○場面をイメージさせ、それを表現することで、問題解決に当たらせる。

○文字や言葉やその意味については、繰り返し練習させて、習熟を図る。時間をかける必要がある。日常に使っていく必要がある。

○授業をつくるうえでは、「単元計画」が中心となる。

○「話すこと・聞くこと」について・・・ **話すことのパターン化**

- ・どちらかという「話すこと」に重点をおきたい。
- ・ワークシートなどで、話型で、パターンを覚えこませる。そこから徐々にくわしく説明できるようにしていく。
- ・言葉だけでなく、動作や絵などを補助に使う、うまく表現することを身につけさせたい。

○「書くこと」について・・・ **試写し、体感する。**

- ・視写が効果的。読点、句点等、視写をすることで体感的に学ぶ。
- ・読むことと書くことは、表裏一体。書くことで読む力が磨かれ、読むことで言語感覚が磨かれて書く力が伸びる。
- ・安易にふきだしに書かせて、書かせていると思わないほうがいい。自分の知っている生活のなかの言葉しか使えない。よい文章になじませて、よい言語環境を作ることのほうが大切。

○「読むこと」について・・・ **どの教材も音読中心の授業**

- ・とにかく、いろいろな方法で繰り返し、繰り返し、音読をすることが効果的である。
- ・暗唱するまで子どもが飽きずに読むために、どんな手立てをするか、が大切。物語でも説明文でもそれは同じ。

- ・1・2年生の間は、よい文章を声に出して読み、それを聞くことで基本的な文法や言語感覚が磨かれると思われる。
- ・イメージ・想像力を広げさせたいとって、安易にふきだしにたよるのはよくない。
- ・登場人物等に同化させていくような授業がよい。客観視するような授業は、感動も少ない。  
「それは、こまったね。」ではなく、「困ったな。」である。

## 算数

- 問題解決学習展開で、仮説検証型が多いと考えられる。
- 「仮説」は、子どもにとっては「結論」である。
- 場面をイメージさせ、それを表現することで、問題解決に当たらせる。  
(演算決定の場面)  
T:これはなに算?→C:たし算→T:どうして?→C:手がこうなるから(動作化)→T:なるほど
- 技能や計算は、繰り返し練習させて、習熟を図る。時間をかける必要がある。
  - ・概念や原理をとらえさせる
    - 概念や原理に従って求答する。
    - きまりを見つける。(アルゴリズム)
    - きまりに従って、求答する。→練習し、習熟を図る。
- 単元計画も大事ではあるが、毎時間の授業の組み立てが、中心になる。

## 生活

- とにかくいろいろなことを経験、体験させてやることである。理由や理屈は、あとからついてくる。
- 経験、体験が、一番の目標である。
- 失敗させないように、準備し、全員が成功するには、どうすればよいかを考えるのではなく、失敗を経験させ、その失敗をしたときに、どうやって修正、回復していくかを学ばせることがたいせつである。
- 子どもの失敗を予想し、その修正や回復をどのように取り組ませるかを計画する。

(チューリップを育てる体験)

T:これは、チューリップの球根といいます。みんなは、あさがおを育てたことがありますね。  
その経験を使って、チューリップを育てましょう。球根は、あさがおで言うと種に当たります。  
あさがおをどのように育てたか思い出してみよう。」

※いろいろな意見を出させ、想起させる。

T:では、きれいな花が咲くように、上手に植えてしっかり育てましょう。

※各自で、植える。

※指導者は、子どもの数と同じ数の球根を学習園に植え、育てる。

植え方の問題や水やりの問題で失敗した子どもに反省させた上で、学習園で育てている球根を与え、続きの学習をさせる。

## 道徳

- 善悪の判断は、ほぼできていると考える。しかし、悪いと知っていながら悪いことをしたり考えたりする。どうして、わかっているのに悪いことをしたり考えたりするのかを考えさせる。
- 学校で学級で自分の居場所をしっかりとつかませる。
  - ・学級の係は、一人一役で毎日仕事があるもの。
  - ・「このことについては、〇〇さんだ。」といわれるようなものをつくっていく。
- 指導内容
  - A. 主として自分自身に関すること
    - 善悪の判断、自立、自由と責任
      - よいことと悪いこととの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。
    - 正直、誠実
      - うそをついたりごまかしをしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。
    - 節度、節制
      - 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。
    - 個性の伸長
      - 自分の特徴に気付くこと。
    - 希望と勇気、努力と強い意志
      - 自分のやるべき勉強や仕事をしっかりと行うこと。
  - B. 主として人との関わりに関すること
    - 親切、思いやり。
      - 身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。
    - 感謝
      - 家族など日頃世話になっている人々に感謝すること。
    - 礼儀
      - 気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接すること。
    - 友情、信頼
      - 友達と仲良くし、助け合うこと。
  - C. 主として集団や社会との関わりに関すること
    - 規則の尊重
      - 約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にすること。
    - 公正、公平、社会正義
      - 自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。
    - 勤労、公共の精神
      - 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。
    - 家族愛、家庭生活の充実
      - 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。
    - よりよい学校生活、集団生活の充実
      - 先生を敬愛し、学校の人々に親しんで、学級や学校の生活を楽しくすること。

○伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度

我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもとこと。

○国際理解、国際親善

他国の人々や文化に親しむこと。

D. 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

○生命の尊さ

生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。

○自然愛護

身近な自然に親しみ、動植物にやさしい心で接すること。

○感動、畏敬の念

美しいものに触れ、すがすがしい心を持つこと。

## 音楽・図工・体育

○知識・技能そして情操。

○感動のある授業の構築

低学年は、特に、怒るより、ほめて育てる。

— 毎朝、歌で始まって、読み聞かせで終わろう。—